

## 人々を魅了し続ける 「とんぼ玉」

とんぼ玉って、素敵な響きに感じられませんか！それは穴のあいたガラス玉（ビーズ）のこと。模様のついたガラス玉をトンボの複眼に見立てたことが、とんぼ玉の由来だそうです。

最近では作り方を教える教室や、ガラス工芸作家がネックレスやストラップなど小物アクセサリーとして製作しています。古代のとんぼ玉を収集しているコレクターも各地に増え、研究も行われているようです。

宮地花池にお住まいの野田直人さんはJICA（国際協力機構）の専門家として、農業支援などでアフリカに滞在中、現地収集された古代のとんぼ玉に出会いました。かつてアフリカには、交易のために数多くの

とんぼ玉が持ち込まれました。早くは紀元10世紀ごろにマリ帝国に向かって隊商がサハラ砂漠を越えてとんぼ玉を持ち込み、大航海時代以降はベネチア製のとんぼ玉が象牙などの物々交換のために持ち込まれたそうです。そんなお話と2001年〜2005年にセネガルに滞在中に収集されたとんぼ玉の紹介を11月13日に鳥崎にある「織部亭」でされました。これは市民向け生涯学習講座「いちのみや大学」の第3回目の講座として開催されたものです。

「いちのみや大学」は、生涯学習と地域の生活向上を推進する市民有志によるネットワーク。誰でも参加できますので、あなたも気軽に出かけてみては！

■いちのみや大学事務局  
電話0586(72)5445  
[info@ichinomiyadaigaku.com](mailto:info@ichinomiyadaigaku.com)

# いきいき ライフ



▲講義をする野田さん